

令和元年度 本科（第 56 期） 試験問題

【財務諸表論】

【解答に当たっての注意事項】

- 1 机上には、持込みが許可された筆記用具等以外は出さないこと。
《持込みが許可された筆記用具等》
ペン又はボールペン（インクの色は黒色のみとし、消せるものを除く。）
鉛筆又はシャープペンシル（芯の色は黒色のみとし、B又は2 Bに限る。）
プラスチック製の消しゴム、鉛筆削り、定規
- 2 答案用紙の追加配付は行わない。
書き損じた場合は使用した筆記用具により次のとおり対応すること。
 - ・ ペン又はボールペン・・・定規を使い二重線で抹消すること。
 - ・ 鉛筆又はシャープペンシル・・・消しゴムできれいに消すこと。
- 3 答案用紙のホチキスは、外さないこと。
- 4 試験問題は、指示があるまで開かないこと。
- 5 試験問題の内容に関する質問には応じない。
印刷の不鮮明等がある場合には、試験開始後、静かに手を挙げること。
- 6 注意事項に従わない答案や、解答欄を誤って記載した答案については、採点されない場合や、減点される場合がある。

【第1問】

会計の基本事項に関する次の1から5までの記述について、正しい記述には「○」、誤っている記述には「×」を答案用紙の「正誤」欄に記入し、「×」を記入したときには答案用紙の「理由」欄にその理由を記入しなさい。

ただし、全て「○」又は「×」を記入したときには採点しない。

- 1 財務諸表等規則のいう財務諸表と会社計算規則の計算書類との違いはキャッシュフロー計算書である。
- 2 税務会計は法人格をもつ企業実体説を前提とする。
- 3 営業債権を固定資産に計上することもありうる。
- 4 流動比率を改善するには固定資産の売却による方法しかない。
- 5 固定性配列法では固定資産と資本(純資産)との関係だけが重要である。

【第2問】

会計全般と資産に関して、次の1から4までの問に答えなさい。

- 1 所有主理論と企業主体理論の違いについて説明しなさい。
- 2 会計上の資産の概念を明らかにし、繰延資産との関連でその計上要件について説明しなさい。
- 3 固定資産の交換及び贈与に関する取得原価の決定について説明しなさい。
- 4 固定資産の減損処理について説明しなさい。

【第3問】

負債及び純資産について、次の1から4までの問に答えなさい。

- 1 負債評価の方法について説明しなさい。
- 2 資産除去債務の適用条件と、その処理法について説明しなさい。
- 3 資本金の意義を明らかにし、それが①増加するケースと、②減少するケースをそれぞれ2つ挙げなさい。
- 4 退職給付引当金と退職給与積立金の類似点と相違点について説明しなさい。

【第4問】

損益計算について、次の1から4までの問に答えなさい。

- 1 生産完了基準の根拠とその会計処理について説明しなさい。
- 2 特別損益に計上される項目を指摘し、前期損益修正損益の取扱いについて説明しなさい。
- 3 原価配分の原則と費用収益対応の原則の関係について説明しなさい。
- 4 当期業績主義の根拠とその問題点について説明しなさい。

【第5問】

一般原則について、次の1から3までの問に答えなさい。

- 1 正規の簿記の原則と重要性の原則との関係について説明しなさい。
- 2 資本取引・損益取引区分の原則の意義と、資本取引の具体的内容について説明しなさい。
- 3 真実性の原則と継続性の原則との関係について説明しなさい。

【第6問】

財務諸表及び連結財務諸表に関して、次の1から4までの問に答えなさい。

- 1 貸借対照表の性格について説明しなさい。
- 2 個別会計における企業実体説と連結会計における経済的単一説との関係について説明しなさい。
- 3 連結会計における棚卸資産の未実現損益除去の方法について、①ダウンストリームのケースと、②アップストリームのケースとに分けて説明しなさい。
- 4 持分法の適用範囲と、その会計上の意義について説明しなさい。